

第6章 近代国家



ファイサリーヤ・タワー（リヤード）

サウディアラビアは、1932年の建国以来、歴代の国王が全力を注ぎ実施してきた国家開発プロジェクトと豊富な石油資源の恩恵を受け、世界でも異例の速さで一大近代国家に生まれ変わった。リヤード、ジェッダをはじめとする国内の主要都市には、近代的な省庁ビルやオフィス・ビル、世界一流のホテル、大規模ショッピングセンターなどの高層ビルが立ち並び、道路、電力、ガス、水道、通信といった社会基盤も十分に整備されている。また、医療・教育費の無料、政府補助金制度による低料金の公共サービスなど、国民に対する社会福祉も国の隅々にまで行き渡っている。

1 社会基盤整備

(1) 道路

1970年に始まった開発5カ年計画において、サウディアラビア政府は国内の道路網および同国と近隣諸国を結ぶ道路の建設に重点を置いた方針を策定し、経済活動に欠かせない道路網の整備・拡充に取り組んできた。



リヤードの高速道路ジャンクション

2000年末現在、高速道路と普通道路を含む道路網の総延長距離は4万6,900キロメートルに及び、これに農業用道路11万1,800キロメートルを加えると、国内を走る道路の総延長距離は15万8,700キロメートルに達する。

高速道路は国際規格に基づき建設されており、片側2車線や3車線の近代的な道路が主要都市間を連結している。東部ダンマームから中央部のリヤードを經由して西部のジェッダに到る、アラビア半島を横断する高速道路は全長約1,400キロメートルに達する。この他に、マッカ＝マディーナ道路（421キロメートル）、リヤ

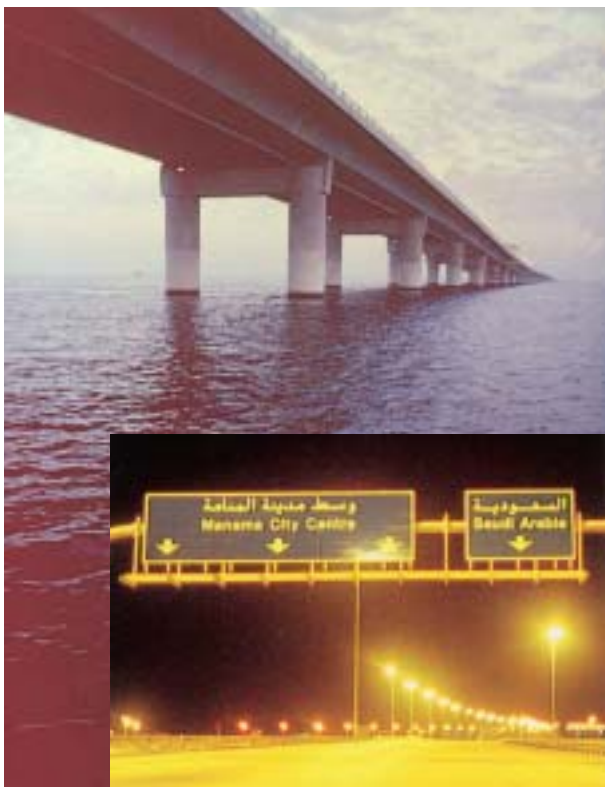
ード = カシム道路 (317
キロメートル) など諸都市
と地方を結ぶ高速道路も全
国に広がっている。なお、
高速道路の通行料はすべて
無料である。

また、市街地と郊外間と
の交通渋滞を緩和する目的
で、主要都市の周囲に環状
道路も建設されている。立
体交差点、地下道、高架道
などにより、スムーズな交
通の流れが実現されていま
るとともに、照明灯、街路樹
などの整備によって道路の
安全性も強化されている。

環状道路の主なものには、

リヤード道路 (63.2キロメートル)、マッカ道路 (27.1キロメートル)、ブライダ
道路 (85キロメートル)、ジェッダ道路 (103.6キロメートル)、そして東部州の都
市間を結ぶ道路 (108キロメートル) がある。

東部州のアル・コバルと隣国のバハレインは、海を跨ぐキング・ファハド・コ
ーズウェイで結ばれている。総工費27億6,900万リヤール (7億4,000万ドル) を要
したこの海上道路は全長が25キロメートルあり、1986年11月に完成・開通した。
入出国する車両の通行量は年々増加し、1994年は年間約170万台であったものが、
2001年には270万台に達し、1,000万人が利用した。片道の通行料は、普通乗用車
が20リヤール (約600円)、小型バス/ピックアップが30リヤール (約900円)、大
型バス (50人乗り) が50リヤール (約1,500円)、トラックは重量によって異なり、
1トンにつき3リヤール (約90円) となっている。



キング・ファハド・コーズウェイ

主要都市間の距離

単位：キロメートル

	リヤード	ダンマーム	ジェッダ	マッカ	ターイフ	マディーナ
リヤード	-	389	958	880	792	869
ダンマーム	389	-	1,370	1,292	1,204	1,287
ジェッダ	958	1,370	-	78	166	410
マッカ	880	1,292	78	-	88	427
ターイフ	792	1,204	166	88	-	527
マディーナ	869	1,287	410	427	527	-
アブハー	1,051	1,446	649	666	580	1,107
ハーイル	641	1,053	1,032	888	988	461
ジーザーン	1,245	1,638	725	699	775	1,135

(2) 電 力

従来、地方ごとに独立していた電力会社5グループが電力事業を行っていたが、これら電力会社は2000年2月に統合され、新たに「サウディ電力会社 (Saudi Electric Company)」が設立された。現在、この新会社の統括の下で、発電・送電・配電などの電力事業が実施されている。2001年の総発電能力は2万3,730メガワットで、国内約400万の契約者に電力が供給されている。

総電力消費量に占める産業部門の割合は25%前後であり、残り75%が家庭用や



発電・造水プラント

中央制御室

消費者 / 消費量別電気基本料金

消費者 / 消費量 (kw / 月)	単価 (ハララ / kwh)
産業用 (消費量と関係なく一律料金)	12
農業用	
1 ~ 2,000	5
2,001 ~ 5,000	10
5,001以上	12
商業・家庭・政府用	
2,000まで	5
2,001 ~ 4,000	10
4,001 ~ 6,000	12
6,001 ~ 7,000	15
7,001 ~ 8,000	20
8,001 ~ 9,000	22
9,001 ~ 10,000	24
10,000以上	26

注：1ハララ= 約0.3円

(出所：サウディアラビア総合投資院)

よって異なるが、政府補助金制度により低く抑えられている。

商業用として消費されている。ほとんどの家庭がエアコンを使用していることから、家庭の電力消費が極めて多くなっている。人口増と産業の発展により、電力需要は今後さらに増加すると予想されているため、新規発電所の建設など電力部門への投資は引き続き行われる予定である。

家庭用の電圧は220ボルト / 110ボルト、60ヘルツ、また料金は月間の消費量に

(3) 造 水



ジーザン・ダム (ジーザン)

サウディアラビアは広大な国土を有しながら、そのほとんどが年間雨量100ミリ前後の乾燥地帯であり、一部のオアシス地帯を除き、河川や湖沼などの大規模な水供給源は存在しない。国民の飲料水と工業用水は主として海水淡水化プラントで生産される上水に依存しており、地下水は農業用水として利用されている。民間によって管理されている水井戸の数は10万井以上に達している。

アシール地方の山岳地帯は雨量が多く、その雨水の有効利用を目的として数多くのダムが同地方を中心として建設されている。1998年5月、中東では最大級の「ファハド国王ダム」が竣工し、このダムを含め現在までに197のダムが完成している。総貯水能力は8億900万立方メートルである。

サウディアラビアは世界最大の淡水生産国である。淡水化事業の責任機関である「海水淡水化公団 (Saline Water Conversion Corporation : SWCC)」がアラビア湾沿岸と紅海沿岸の15カ所において合計29の海水淡水化プラントを操業している。これらプラントの一日当りの総生産能力は、淡水が250万立方メートル(6億5,700万ガロン)、電力が3,760メガワットに達している。淡水化された水は総延長2,500キロメートルに及ぶパイプラインによって40を超える市町村に供給されている。一般用の水道料金は月間の使用量によって異なり、また、工業用は各工業地区によって異なる。



造水プラント (ジュベイル)

一般用水道基本料金

月間使用量（立方メートル）	単価（リヤール/立方メートル）
1～50	0.1
51～100	0.15
101～200	2.0
201～300	4.0
301以上	6.0

注：1 リヤール=約30円（出所：サウディアラビア総合投資院）

（4）通 信

最先端技術の通信設備が完備されており、その通信網は国内全土に張りめぐらされている。電話やファクシミリはもちろんのこと、インターネットなどの最新の通信サービスも都市部のみならず地方においても容易に利用することができる。電話は、国内、国際通話ともに、ダイヤル・インで先方に直接つながり、通話状態も良好である。

2001年末現在、稼働中の電話回線数は320万回線、携帯電話回線数は250万回線、インターネットの加入者数は40万人以上を数えている。



通信衛星地上ステーション

(5) 空 港

現在、国内には26の空港があり、その内、次の3空港が国際空港である； キング・ハーリド国際空港（リヤード）、 キング・アブドルアジーズ国際空港（ジェッダ）、 および キング・ファハド国際空港（ダンマーム）。これらの国際空港は最新の設備と施設を備えた、世界でも最も近代的な空港に数えられており、欧米、中近東、アジア諸国などの外国航空会社20数社が乗り入れている。

国営の「サウディアアラビア航空会社（Saudi Arabian Airlines : SAUDIA）」が国内線・国際線の航空機を運航している。同社は中東地域では最大の航空会社であり、IATA（国際航空運送協会）加盟の165航空会社の中で、15位にランクされている。国内線は国内26の空港を結び、また、国際線はアジア、アフリカ、ヨーロッパ、北米地域の50以上の主要都市に乗り入れており、2001年の国内・国際線の総乗客数は約1,390万人に達している。

サウディアアラビア航空は世界の航空会社とは異なり、商業上の営利のみを目的



SAUDIA航空機



キング・ハーリド国際空港内（リヤード）

とした会社ではなく、宗教的なサービス・義務の遂行も目的として設立された会社である。マッカ、マディーナへの巡礼者と訪問者を輸送するという宗教的責任を有する航空会社としてアブドルアジーズ国王が1945年に設立したものである。

(6) 鉄 道

1951年、サウディアラビア王国唯一の鉄道である、リヤード＝ダンマーム路線が開通した。全長571キロメートルの単線鉄道であったが、1985年にホーフ＝リヤード間の経路を短縮した、全長448キロメートルの複線の新線が敷設された。この新線の誕生に伴い、駅舎が増改築され、高速列車も導入された。

現在、リヤードとダンマームからそれぞれ1日3便、合計6便が運行されており、所要時間は約4時間である。2001年の乗客総数は約79万人、貨物輸送量は約150万トンであった。大人1人の片道料金は1等が60リヤール（約1,800円）、2等が40リヤール（約1,200円）である。



リヤード・ダンマーム鉄道

(7) 港 湾

サウディアラビア王国には主要商業港が6港と工業港が2港ある。商業港は西の紅海側に、ジェッタ・イスラーム港、ヤンプー港、ジーザーン港、ディバ港の4



ダンマーム港

港、アラビア湾側にはキング・アブドルアジーズ・ダンマーム港とジュベイル港の2港がある。工業港の2港は、ジュベイルのキング・ファハド工業港とヤンプーのキング・ファハド工業港である。

これら8港の埠頭総数は183で、2002年の年間総取扱い貨物量は1億416万4,977トン（荷積み6,762万4,554トン、荷降し3,654万423トン）、乗降客は183万8,391人（到着98万8,880人、出発84万9,511人）であった。

この他に、ウナム・ラジュ港やクンフダ港などの小規模な港が紅海沿岸にあり、また、アラビア湾岸沿いにはサウディアラムコのラス・タヌーラ、ジュアイマなどの石油積み出し港もある。

2 医療・保健サービス

医療・保健サービスは保健省が中心となって実施しており、サウディアラビア国民は世界でも最高水準のサービスを楽しんでいる。同省の他に医療サービスを実施している政府機関としては、国防・航空省、国家警備隊、内務省、青年福祉庁などがあり、各自が設立した医療施設においてその職員と家族に医療サービスを提供している。医療費は、私立の病院やクリニックの場合は患者の自己負担となるが、公立医療機関の診療費はサウディアラビア国民のみならず在留外国人も無料である。



保健センターの総数は2001年には3,559まで増加し、これらが全国各地に設置された結果、病気の初期検診と予防の面で大きな成果が挙げられている。ポリオ、ジフテリア、破傷風、百日咳、ウイルス性肝炎などの予防ワクチンの接種率はほぼ100%に達している。

いくつかの専門病院と医療センターでは、高度な技術を要する臓器移植手術が行われている。「サウディ臓器移植専門センター」は1987年に設立されて以来、合計で数千件のにのぼる腎臓、肝臓、心臓、角膜などの移植手術を行っている。また、リヤードの「ファイサル国王専門病院」には附属機関として医療研究センターとガン研究センターが併設されている。眼科専門の病院としては、世界最大規模で近代的設備の整った「ハーリド国王眼科専門病院」がある。さらに注目すべき医療施設はリヤードに建設された「ファハド国王医療都市」である。一般病棟（459ベッド）、小児科病棟（246ベッド）、産科病棟（236ベッド）、精神科病棟（300ベッド）、腎臓センターの各医療施設から構成された世界でもトップクラスの複合医療施設である。一般の病院では治療が困難と見られる患者がこれら専門病院で治療を受けることになる。

サウディアラビアは国土面積が広いため、「遠隔地医療サービス（別名、空飛ぶ病院）」も発達している。これは、医療機器を装備した飛行機やヘリコプターが病人や怪我人を国内各地の病院に航空輸送するサービスである。



ファハド国王医療都市（リヤード）



ハーリド国王眼科専門病院（リヤード）

2001年の医療関連データは次の通りである；公立・私立の病院総数：322、ベッド数：4万6,345、保健センター数：3,599、医師数：3万1,399人、看護師数：6万6,772人、技術スタッフ数：4万1,173人。

3 社会開発・福祉サービス



医療施設の開所式に出席したファハド国王

労働・社会問題省は社会開発・福祉サービスに関する様々なプログラムを実施している。幼児と母親のケア、孤児の養護、高齢者介護、身体障害者のリハビリの実施、健康上や社会的、経済的弱者のケアなど多岐にわたる援助プログラムがある。これらのプログラムは、孤児の養護施設（18施設・1機関）、非行少年更正施設（19施設・1機関）、小児麻痺児童養護施設（2施設）、身体障害者用社会復帰施設（26リハビリセンター）、高齢者介護施設（10施設）、貧困対策施設（11事務所）など数多くの社会福祉施設において実施されている。

また、国内各地に社会開発センターが24（都市部7、農村部17）設置されており、多くの社会開発プログラムが地域住民の協力の下で行われている。現在、161の生活協同組合と230に及ぶ慈善団体（内22は婦人団体）が様々な社会サービス・福祉活動に参画している。

社会福祉の柱の一つである社会保険部門も充実している。労働・社会問題省の社会保険局が本部と支部、合わせて76の事務所を通じ、社会保険制度による生活補助金を有資格対象者に給付している。受給者は、孤児、寡婦、全機能または一部機能障害による就労不能者、服役囚の家族、天災被害者などである。社会保険

に加入している労働者数は約260万人、制度適用の対象企業・団体数は3万数千社に達している。

4 教育

サウディアラビア王国は、青少年にイスラームの価値と根本原則を教え、国家と国家の歴史に誇りを持って社会の生産活動に参画できる知識と能力を身に



女子小学校

付けさせること、を教育目標としており、一般教養、イスラーム学、現代科学と技術など、様々な分野における授業を実施している。国公立学校の授業料は全教育課程において無料である。



建国の父アブドルアジーズ キング・サワード大学入口(リヤード)

ズ国王は、国家建設と社会開発において重要な役割を担う教育の拡充に重点を置き、王国の建国宣言6年前の1926年に「教育局」を設置した。1945年、国王は国内全土に教育施設を建設する大規模計画を開始し、1951年までの6年間ににおいて226の学校が新設された。国王の逝去後、この教育振興事業は歴代の国王に引き継がれたが、特に1953年にサウディアラビア王国初の教育省が設立され、その初代大臣に就任した現ファハド国王によって、教育部門は飛躍的な発展を遂げた。

過去50年間にわたり莫大な資金が教育部門に投入されてきた結果、教育基盤は

拡大し、幼稚園から高等教育に至るまで、質量ともに高い水準の教育が実施されている。また、公立の学校教育を補完する私立学校も幼稚園から高校まであり、国公立校同様、質の高い教育が行われている。



コンピューター・プログラミングを学ぶ学生

全教育課程の男女別学校総数は、1970年の3,283校から2001年の2万3,517校へと約7倍に増えており、また、同期間の男女生徒総数は、55万人弱から約500万人に増加している。男子校は教育省、女子校は女子教育庁がそれぞれ管轄している。女



キング・ファハド石油・鉱物大学(ダハラン)

子教育庁は、女子校や女子専門学校の設立からカリキュラム、講座の内容に至るまで、広範囲にわたる女子教育分野を監督している。

高等教育部門も発展し、能力・組織・カリキュラムにおいて世界の由緒ある大学に匹敵する総合大学が現在、8校開校している。これらの大学には、合計72の学部があり、約38万人の男女学生が就学しており、1万人を超える教員が教鞭をとっている。大学名は次の通りである；

キング・サウード大学(リヤード) イスラーム大学(マディーナ) イマーム・ムハンマド・ビン・サウード・イスラーム大学(リヤード) ウナム・アルクラー大学(マッカ) キング・

アブドルアジーズ大学（ジェッダ）、キング・ファイサル大学（ダンマーム）、キング・ファハド石油・鉱物大学（ダハラーン）、およびキング・ハーリド・ビン・アブドルアジーズ大学（アブハー）。

これらの教育施設以外に、男女教員養成専門学校や保健専門学校そして女子教育専門学校など、合計216校の専門学校が設立されている。これら専門学校の男女生徒数は約50万人、教員数は約2万人を数えている。サウディアラビア政府はまた、技術教育・職業訓練にも力を入れている。技術専門学校、工業・商業・農業の各研修所、職業訓練センターが拡充され、多様な専門知識を習得したサウディ人の若者がこれら教育施設から巣立っている。

サウディアラビア政府は文盲の撲滅と社会人教育を目的として、3,000を超える男女別の夜間学校を開設し、幼少時に教育の機会に恵まれなかった人々に対し初等教育を行っている。

在留外国人用のインターナショナル・スクールも国内各地に設立されている。アメリカ、イギリス、フランス、日本など各国の学校において、それぞれの国の教育カリキュラムに基づいた授業が実施されている。

学校数・生徒数の推移

	学校数	男子生徒数	女子生徒数	生徒数合計
1970	3,283	412,000	135,000	547,000
1975	5,634	673,000	311,000	984,000
1980	11,070	951,000	511,000	1,462,000
1985	15,079	1,273,000	876,000	2,149,000
1990	16,609	1,624,000	1,310,000	2,934,000
1995	21,284	2,022,000	2,369,000	4,774,000
2000	22,770	2,405,000	2,369,000	4,774,000
2001	23,517	2,595,452	2,420,198	5,015,650

（出所：文化・情報省）

5 文化・民族遺産

(1) キング・ファイサル国際賞

キング・ファイサル国際賞は、キング・ファイサル財団が1979年に創設した国



1996年度キング・ファイサル国際賞受賞者。藤原哲郎教授（右端）、キング・ファイサル賞委員会委員長ハーリド・アルファイサル殿下（右から3番目）（リヤード）

際賞であり、アラブ世界のノーベル賞に譬えられている。「アラブ文学」、「イスラーム研究」、「イスラームへの奉仕」、「科学」、「医学」の5分野において顕著な貢献を果たした世界の人々に授与されている。キング・ファイサル財団は、イスラームに生涯を捧げた第3代ファイサル国王の8人の子息たちが父王の遺徳を後世に伝えようとして1976年に設立したものであり、文化事業の奨励、教育・保健衛生の向上、発展途上国の貧民救済など、国際視野に立った幅広い活動を展開している。

1996年、岩手医科大学の藤原哲郎教授が医学部門において日本人としてはもちろん、アジア初のキング・ファイサル国際賞の受賞者に選ばれた。その後、1999年には名古屋大学の野依良治教授が科学賞を、そして2003年にはコロンビア大学の中西浩二教授が同じく科学賞をそれぞれ受賞している。なお、野依教授は2001年度のノーベル化学賞を受賞したが、この事実からも分かるとおり、キング・ファイサル国際賞はノーベル賞の対象となる優秀な科学者や文学者を選出しているのである。



2001年度キング・ファイサル国際賞受賞者。右から4人目は野依良治教授

(2) 青年福祉庁

青年福祉庁は、サウジアラビア王国の文化活動の促進、スポーツ振興などを主任務とする政府独立機関である。

文学・詩・芸術コンテストの地方・全国レベルの開催、文化週間の開催、演劇活動の奨励、絵画展や現代サウディ展の開催など、多種多様のプログラムを立案・実行している。

同庁はまた、文芸・思想活動の奨励策として「国民文化功労賞」を設け、貢献のあったサウディ人文学者を称える一方、「ファイサル・ビン・ファハド殿下サウディ児童文化賞」を創設し、児童文化の奨励にも力を入れている。

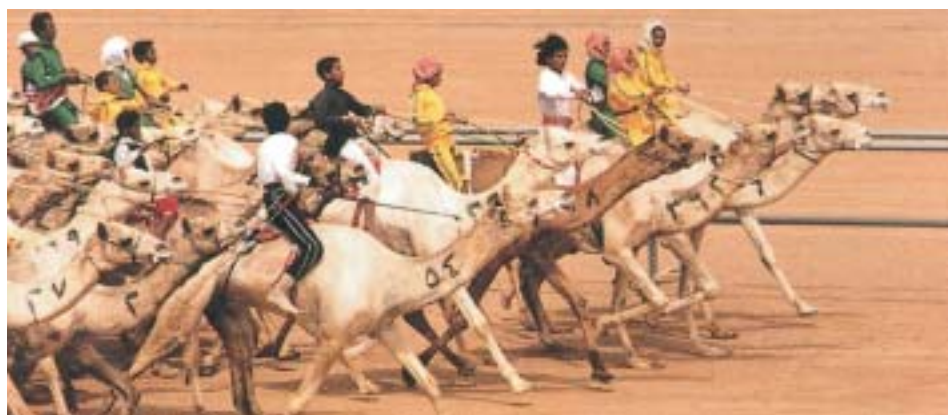
(3) サウジアラビア文化・芸術協会と文化クラブ

1972年に設立されたサウジアラビア文化・芸術協会は、リヤードに本部を、国内諸都市に支部を置き、広範囲な文化・芸術活動を行っている。文化・芸術水準の向上、自国民文化人・芸術家の支援、芸術的才能を有する青少年の育成など

を主目的としている。また、同協会は王国を代表してアラブ諸国やその他外国の諸都市において開催される文化・芸術フェスティバルにも参加している。

国内にはまた、多数の文化クラブが設立されており、文学の創作と出版活動において中心的な役割を担っている。クラブは文化人と知識人が集う重要な交流の場であり、講演会、詩の夕べ、シンポジウムの開催などを通じ、活発な文化活動を展開している。

(4) 民族遺産・文化フェスティバル(ジュナードリーヤ・フェスティバル)



ジュナードリーヤ・フェスティバルでの駱駝レース

このフェスティバルは、リヤード市近郊のジュナードリーヤにおいて、国家警備隊が毎年、組織・運営している一大イベントである。その目的は、講演会の開催、大規模な遺産品の展示、ブックフェア、歴史的写真の展示、職人による工芸品の製作、民芸品の展示などによって、サウディアラビアの過去と現代の社会に対する正しいイメージを広めることにある。昔から受け継がれてきている習慣や伝統、そしてそれらが現在の様々な社会生活の面において適用されている様子をこのフェスティバルを通じ、理解することができる。

また、若い世代に対しては、彼らの両親や祖父母が送ってきた暮らしぶりを教え、今日の国家の発展と繁栄をより良く理解せしめることも、このイベントの重要目的の一つである。政府省庁のほか、数多くの文化・芸術関連機関が全国から



鷹と鷹師



伝統工芸



ジュナードリーヤ・フェスティバルを訪れた在留邦人

フェスティバルに参加しており、それぞれの活動や業績を紹介している。

この民族遺産・文化フェスティバルは今や、アラブ世界では最も有名な文化イベントとして定着しており、アラブ諸国、その他外国からの著名な作家、知識人が一堂に会する機会を提供している。講演会とシンポジウムでは、アラブ、イスラーム、そして国際社会における興味あるトピックが取り上げられ、議論されている。さらに、サウジアラビアのユニークな文化を紹介する催し物として、詩の朗読や演劇の公演なども行われている。

(5) 民衆芸術

広大な国土と国民の多様性により、サウディアラビアには興味深い、多くの民衆芸術が生まれている。特に民族舞踊は国内全土に広まっており、人気を博している。砂漠地域で最もよく知られている民族舞踊は、「アル・アルダ」、「アル・サムリ」、「アル・ダハ」と呼ばれる舞踊であり、一方、海岸地方には、「アル・バハリヤー」、「アル・ファジュリ」、「アル・アアショリ」、「アル・シムシミーヤ」、「アル・ハバティ」と称される各舞踊がある。また、山岳地方の有名な踊りは、「アル・アルダ」、「アル・アザウィ」、「アル・ミシャバニ」、そして「アル・セイフ（剣の舞）」である。これらの舞踊の中で、最もよく知られ、特別な行事や祭日の期間に披露されるのが、アル・アルダである。



サウディ民族舞踊・剣の舞

伝統的なサウディアラビアの楽器には、次のようなものがある。

アル・ラババ：皮で作られた小さな箱型をした、ヴァイオリンに似た一弦の楽器で、丈夫な毛で作られた弓で演奏される。通常、民衆に人気のある詩歌を朗吟する歌手の伴奏用に使用され、哀調を帯びた音色を出す。砂漠地帯で広く用いられている楽器である。



民族舞踊



民族楽器

アル・ディフフ：片側が皮で覆われた木枠の打楽器で、指で打ち鳴らされる。リズムカルな音は楽器の大きさによって異なるが、楽器そのものも地域によって相違しており、各地方独自のリズムを生み出している。

アル・シムシミーヤ：4本の金属弦、小さな正方形の枠、そして長いさおから構成されている楽器で、指で軽くかき鳴らされる。沿岸地域でよく使用されており、美しい音を出す。

タブラ：大木の幹をくりぬいて作られるドラム。両端の穴の部分はラクダまたは牛の皮できつく張りかぶせられる。各地方には、それぞれ独特のドラムと音がある。

上記の弦楽器や打楽器以外にも、伝統的な楽器は数多くあるが、近年、オルガンやヴァイオリン、ギターなど、外国の楽器も普及し始めている。

(6) 手 芸

手芸品の材料は木材、ナツメヤシの葉、羊毛、なめし革、石材、粘土である。国内各地で製作されている主な手芸品は以下の通りである。

紡績・機織：羊毛は、ヤギ、羊そしてラクダの毛から作られる。紡績用として汚れが取り除かれた後、居住用テント、カーペット、外套が作られる。

裁縫・刺繍：木綿と毛から男性用の衣服「トウブ」や女性用の「アバーヤ」、そして帽子、肌着などが製作され、外套には金と銀の糸を使った、美しい模様と形の刺繍が施される。

ナツメヤシの葉の民芸品（アル・サアフ）：ナツメヤシの葉を材料として、かご、皿、礼拝用敷物、うちわ、ほうき、ナツメヤシや豆を運ぶ袋と容器などが作られる。

なめしと革製品：獣皮から毛や脂、汚れを取り除き、なめし革とし、有用な家庭用品が製作される。主要革製品には、水を運ぶ「キルバ」、夏季に水を冷やす「シュナ」、「アル・サミエル（バターを作るときに使用される、ミルクをかきまわす道具）」、飼料と豆を運ぶ「アル・アイバ」、乳児を入れて持ち歩く「アル・マイザブ」などがある。アル・マイザブには様々な装飾が施され、木製の枠と丈



夫な皮製の取手が付けられている。また、靴やサンダル、バッグ、刀のさやなどの革製品も作られる。

鍛冶製品、宝石：指輪、イヤリング、ブレスレット、ネックレス、馬の轡などが製作されている。

6 スポーツ

青年福祉庁は、青少年のスポーツ活動への参加を奨励し、各種スポーツ連盟とスポーツクラブに対し、財政支援を行うとともに、スポーツセンター、青年の家、キャンプ地などの様々なスポーツ施設に資金援助や必要用具・備品の提供を行っている。

砂漠地方では、鷹狩、乗馬・ラクダ乗りレースが伝統的なスポーツとして今も人気があり、一方、海岸地方の人々は、水泳、ダイビング、魚釣りを楽しんでいる。最近では、サッカー、バスケットボール、テニス、卓球、アーチェリー、自転車競技などの国際スポーツも全国に広まっている。特にサッカーは人気の高い国民的スポーツとして定着しており、中東地域の競技会のみならずワールドカップなどの国際舞台において輝かしい成績を収めている。



サウディ・チーム、アジアカップ優勝（アブダビ、1996年）



ヨット



自転車競技

スポーツ振興政策とスポーツ施設建設への莫大な投資によって、国際基準に則った世界最高級レベルの近代的スタジアムが国内に誕生している。1988年に完成したリヤードの「ファハド国王国際スタジアム」は巨大なテントの形をした国内最大の施設であり、世界最高水準の設備を誇っている。同スタジアムはサッカーの試合と陸上競技に使用することができ、陸上競技のトラックはオリンピック規格に基づき設計・建設されている。観客席は7万席、総敷地面積は付設のレストラン（収容能力3,000人）や医療施設、報道設備、約4万台収容の駐車場などを含めると50万平方メートルに達する。



ファハド国王国際スタジアム外観と内観

リヤードのほか、マッカ、マディーナ、ターイフ、カシーム、アブハー、ジェッダ、ハサーなどの諸都市にも、陸上競技用トラック、室内競技場、水泳プール、

医療センター、モスクなどの施設を備えた、収容能力が2万人から3万人規模のスポーツセンターが建設されている。

7 サウディアラビア社会と生活

サウディアラビア王国の日常生活において最も重要な要素はイスラームである。サウディ国民はイスラームの教義を信奉し、日常生活のあらゆる面においてそれを順守している、美德と平和、正義を愛する協調性にあふれた人々である。

このようにサウディアラビアは寛容なイスラームの教えを拠り所とした社会であるため、そこには思想的な偏見や差別は事実上、存在していない。これは、長期間にわたりサウディアラビアに留まり、就労している外国人が深く認識している真実である。外国人居住者は、サウディアラビア国民が彼らをサウディ社会に快く迎え入れ、身の安全と安寧を与えてくれる寛容で礼儀正しい国民であることを知っている。サウディ社会の特徴は次の通りである。

- すべての人間の尊厳は守られ、その人権は尊重される。
- 国民は慈愛と優しさに満ちた連帯社会において共同生活を営んでいる。
- 国民は団結と協力の精神の下、日常生活を送っている。

(1) 家族

サウディアラビア社会は、血縁で結ばれた家族と部族のグループから構成されており、家族は次の3カテゴリーに分類することができる； 核家族：父母とその子供たち、 複合家族：血縁関係のあるいくつかの核家族の集合体、および 拡大家族：祖父母、彼らの既婚子女、彼らの孫から成る3世代以上が



夕餉の家族の団欒

同居している集合体。家族はイスラームの正統な教義と社会慣習に基づき形成されており、王国の社会生活におけるかなめ石になっている。様々な変化や近代化の波が社会に押し寄せてきたにもかかわらず、家族はその健全な姿を保ち続けており、この家族の健全性は、心温まる協力関係が広がるサウディ社会の健全性をも反映しているものである。家族の規模や同居世代数とは関係なく、この健全性こそがサウディアラビアの特質なのである。

(2) 結 婚

結婚はサウディ社会において非常に重要な意味を持っている。結婚とは宗教の教えに合致し、家族の名誉を保持し、社会の利益に適うものであり、そして若者が成人に達したことを示すものでもある。過去における結婚の主目的は、労働によって家庭の経済を助け、そして家族の地位を向上するような子供を生み育てることであった。

男女ともに、結婚適齢期は特に定められていないが、宗教的見地からすれば、早婚が望ましいとされており、従って、就学中の若者といえども、早期の結婚が薦められている。しかし、学業が修了するまで結婚を延期するのが、最近の学生の傾向となっている。

結婚に関するサウディ社会の際立った特徴は、早婚と親族間結婚である。親族間結婚は、特に地方において盛んに行われている。早婚の理由は宗教的・道徳的価値観によるものであるが、こうした価値観は青少年が社会的・宗教的な家庭内教育を受けて身に付けたものである。2番目の特徴の親族間結婚は、サウディ社会における親密な家族関係に起因しているものであり、また、家族の意向を尊重したいとの若者の希望を反映しているものでもある。

地方によって若干の相違はあるものの、結婚に関するサウディ社会の一般的な慣習は次の通りである。

花嫁の選択

家族が息子の結婚を決断すると、その母親は息子にふさわしい花嫁を探すため、親戚または友人の女性を一人伴い、多くの家族を訪問し、娘たちに面談する。そして、これらの娘たちから一人の花嫁候補を選び、彼女の人柄と印象を息子に伝

える。もし、息子が彼女との結婚に同意すれば、息子と彼の家族の年長者が一緒に彼女の父親を訪問し、息子の口から彼女と結婚したいとの意志を父親に表明する。そして、結婚の合意がなされれば、両家によって正式な婚約が取り交わされ、結婚の手続きが進められる。

婚資

婚資の額は、両家の社会的地位と経済状況ならびに社会慣習に基づき、取り決められる。花嫁は、衣服や香水など、結婚後の家庭において必要となる彼女自身の必需品を婚資によって購入することができる。

結婚契約

結婚契約の調印式が両家親族の出席の下に開催され、花婿と花嫁の父親が結婚契約を行う。この後、出席者全員が結婚を祝福し、幸福な結婚を祈る。

結婚式

結婚式の習慣や伝統は地方によって異なるが、結婚式のほとんどは夜に行われ、特に月曜日と金曜日の夜に集中している。両家の親戚と友人が招待され、特別料理が提供される。また、詩の朗読や民族舞踊も披露されることがある。イスラームは、女性とその非縁者の男性との同席を禁じているため、男女別々の宴が催される。花婿と花嫁が新婚家庭に向かうため式場から立ち去った時、結婚式は終了する。



11歳の男児が描いた結婚式

(3) サウディ社会の女性と役割

イスラームは女性の尊厳と経済的・社会的権利を保証している。従って、イスラーム社会の女性は教育の機会も社会的な権利も与えられていない、との見方は大きな誤りである。イスラームの発祥以来、女性は法的相続権や財産権を認められており、結婚後も自分自身の財産は、自分の名義にて所有することもできるのである。

古い時代からサウディ人女性は夫や家族の仕事に参加しており、農村地方では、作物の収穫や家畜の世話・飼育、市場での農作物の販売、



アラブ・コーヒーを楽しむサウディ人女性

水井戸の滑車の管理などに従事し、また、衣服やカバンの裁縫、羊毛の紡ぎなど伝統的な仕事も行いながら家庭を守ってきた。砂漠地帯の住民はラクダと羊の飼育によって生計を立てており、女性は羊毛でベッドのシーツ、家族用テントなどを製作し、また、家畜のミルクから家族の食料を作っている。一方、商人や都市住民の妻たちは、家庭内で家族の世話をすることが主な仕事になっている。サウディアラビアの女性は、社会の基本的な構成単位である「家族」生活の安定性と健全性を守るために重要な役割を果たしている。しかし、女性が常に家庭内の仕事に束縛され、その役割が家庭内に限定されていると考えるのは間違いである。

国家統一後、王国は急速な経済・社会発展を遂げたため、サウディ人女性は高い生活水準と教育の普及という恩恵を受けている。ほとんどの女性が学校に通い、大学への進学者数も急増している。その結果、宗教的・社会的観点から女性にふさわしいとされてきた従来の労働に加え、現在では教育・医療・報道・ビジネス・社会活動などの分野において活躍している女性が増加しているのである。

2003年6月、30人のサウディ人女性実業家が諮問評議会の会議に招待され、彼

女たちがビジネス社会で経験した問題点や投資促進策などに関する報告書が提出された。リヤードでは5,000人、ジェッダでは4,000人の女性実業家が活躍しており、彼女たちの事業は、リヤード民間部門の34%のシェアを、ジェッダ民間部門の25.6%のシェアをそれぞれ占めていると報告されている。主な事業は、食品の輸入、電器・電子製品の販売、結婚式場やレストラン、花屋などの経営である。



このように、現代のサウディ人女性は積極的に社会進出しており、サウディアラビアの社会・経済発展に多大な役割を担っているのである。

(4) 習慣と伝統

サウディ社会には、幾世代にもわたり受け継がれてきた多くの習慣・伝統がある。その内の主なものを以下、紹介する。

挨拶

サウディアラビア国民は通常、イスラーム式挨拶を取り交わす。一方が相手に対し、「アッサラーム・アライクム（平安が貴方にありますように）」と挨拶すると、相手は同じ意味の、「ワ・アライクム・アッサラーム」と挨拶を返す。この挨拶によって両者間に、「友愛・協力・平安」の感情が醸成される。また、両者が久しぶりに会った場合は、この挨拶の後に、お互いに相手の頬や右肩、または鼻や頭、手の甲にキスをすることもある（どこにキスをするかは、両者の年齢や社会的地位、関係の度合いなどによって異なる）。これらの挨拶は男性同士と女性同士の間で交わされる。

衣服

衣服は、それぞれの国の風土や社会環境に適応したものが着用されている。サ



伝統的な男性の衣服



南部地方のカラフルな女性の服

ウディアラビアの場合、その衣服はサウディ文化の一部となっており、何世代にもわたり受け継がれてきている。サウディの衣服の種類は少ないが、これは民族のアイデンティティと団結を意識する上で有益である。軽い繊維で作られている幅広の夏服は、風通しが良く、夏の暑さを軽減する。一方、冬服は防寒のために羊毛または厚手の綿から作られている。

(イ) サウディ人男性の伝統的的衣服

トウブ：トウブは、頭と両手、両足を除く身体全体をすっぽりと覆うガウン状の長い上着で、袖の幅が広い優雅で、見栄えのする衣服である。夏のトウブは白色で、冬のトウブは濃い茶・青などのものが多い。

ゴトラ：頭にかぶる白地の正方形の布。額の少し上から頭にかぶり、両端は顔の左右に垂れ下がる。

シマーグ：ゴトラと同じく、頭にかぶせる布で、紅白の模様がある。

クフイーヤ：ゴトラまたはシマーグの下にかぶる、刺繍が施してある帽子。

イカール：ゴトラまたはシマーグを押さえるために、その上にかぶせる黒色の円

状のバンド。

ビシトまたはミシュラフ：トウブの上に着る外套で、柔らかい布で作られており、色や品質、仕立て方が異なる様々な種類がある。

靴：多くの男性、特に都市居住者は西洋式の革靴を履いているが、サウディ人男性の伝統的な履物は、ラクダや牛、羊のなめし皮で作ったサンダルである。サンダルは王国の厳しい気象条件に適した履物で、いろいろな色の模様が描かれている。

(ロ) サウディ人女性の伝統的衣装

女性の衣服は地域によっていくらか異なっている。しかし、サウディの女性は、一般的には、袖が長く、幅広で、踵までの長さのある質素な衣服で身を包んでいる。

トウブ：幅が広い、正方形または長方形の衣服で、男性のトウブと似ており、バダン（トウブの中央部分）とバグナ（トウブの側部）の2部分から構成されている。

シャイラ：家庭の内外にかかわらず、常時かぶっている頭巾で、地域によって呼び名が異なる。淡い黒色の綿で作られており、頭と両肩を覆い、上部の端部分が頭の片側に固定され、胸と背中に垂れ下がっている。外出の際には、シャイラの下部を使って、顔を覆う。

アバーヤ：衣服の上に着る、幅広の背丈の長い、黒色の長方形の前結びの外套。

国の近代化にともない、サウディアラビアの服装も変化してきている。国内の衣服店や市場は、世界の様々な種類の既製服で溢れており、仕立屋も数多くある。しかし、伝統的な衣装は今も人気があり、新しいデザインも取り入れられている。

(5) 言語

統治基本法第1条にて、「言語はアラビア語とする」と定められており、公用語はアラビア語である。政府省庁との公的通信書簡はアラビア語で記載されることが原則となっている。アラビア語を翻訳した英語訳文が併記されている書簡も見受けられるが、アラビア語文が権威ある正文であり、英語訳文は単なる参考文にすぎない。従って、両文章間に何らかの不一致がある場合、アラビア語文が優先される。英語は政府省庁などの公的機関やビジネス社会において広く通用している。

アラビア語は、旧約聖書が書かれたヘブライ語やイエス・キリストの用いたア

ラム語と同様、セム語系に属する。その歴史は、旧約聖書に登場するアブラハムの子イサークとイスマーイールの昔にさかのぼる。イサークはユダヤ人の祖、イスマーイールはアラブ人の祖と考えられているが、北アラビアを中心に定着したイスマーイールの子孫の間で話されていた言葉がイスラームの聖典クルアーンの書かれた言語として今日のアラビア語に発達したものである。

ج jīm (ジーム)	ث thāu (ターウ)	ت tāu (ターウ)	ب bāu (バーウ)	ا 'alif (アリフ)
ر rāu (ラーウ)	ذ dhāl (ダール)	د dāl (ダール)	خ khāu (カーウ)	ح hāu (ハーウ)
ض ḍād (ダード)	ص ṣād (サード)	ش shīn (シーン)	س sīn (スイーン)	ز zāy (ザイ)
ف fāu (ファウ)	غ ghain (ガイン)	ع 'ain (アイン)	ظ zāu (ゾウ)	ط ṭāu (タウ)
ن nūn (ヌーン)	م mīm (ミーム)	ل lām (ラーム)	ك kāf (カーフ)	ق qāf (カーフ)
	ء hamza (ハムザ)	ي yāu (ヤーウ)	و wāu (ワーウ)	ه hāu (ハーウ)

アラビア語のアルファベット

イスラームの伝播とともにアラビア語はその通用範囲を拡大し、東はイラクから西はモロッコに至る東西6,700キロメートルの間に居並ぶアラブ諸国の公用語となったのである。

アラビア語が日本人の馴染み深い西欧言語（英語、フランス語、イタリア語など）と著しく異なる点は、文字の形が波状で、右から左に向かって横書きされること、ほとんどすべての単語が、3文字からなる「語根」から派生していること、各文字の音価がすべて子音であることから、書かれた単語や文章の音読が困難なこと、特殊な発音をする文字があること、などである。

また、アラビア語は西欧の言語に大きな影響を与えている。アラビア語で書かれたイスラーム世界の事物の多くが、西欧の言語では表現することができなかったため、そのままアラビア語で定着したものが多々ある。アラビア語を語源とする主な言葉を参考までに以下、列挙する。

アラビア語	英 語	日本語
アルクフル	Alcohol	アルコール
アルカリ	Alkali	アルカリ
カフワ	Coffee	コーヒー
クトン	Cotton	木綿
サファル	Safari	サファリ

(6) 勤務時間と公休日

勤務時間

金曜日が休日で、1週間の勤務の始まりは土曜日からとなる。官公庁、私企業などの勤務時間はおおむね次の通りであるが、礼拝の時間中は勤務は中断され、また、断食月のラマダーンの1カ月間は2時間ほど勤務時間が短縮される。

官公庁：午前7時30分から午後2時30分まで、昼休みはなし。休日は木曜日と金曜日。

銀 行：午前8時から正午まで、および午後5時から7時まで。木曜日は午前8時から正午まで。休日は金曜日。

私企業：午前8時から午後1時まで、および午後4時から7時まで。休日は木曜日と金曜日だが、木曜日の午前8時から午後1時まで勤務する企業もある。

商 店：午前9時から正午まで、および午後4時から8時まで。但し、スーパーマーケットなどの大規模店の中には、24時間営業の店舗もある。休日は通常、金曜日。

公休日

イスラームの宗教行事に準拠した公休日は、「第1章3宗教（イスラーム）」の項にて説明されている、断食明け大祭と犠牲祭の二大祝祭日である。官公庁をはじめ多くの民間企業は祭日の前後各5日間を休日としている。官公庁の場合、休日期間は公務員法により定められており、断食明け大祭の休日は、ラマダーン月25日から翌シャウワール月の5日まで、犠牲祭の休日は、ズ・ル・ヒッジヤ月5日から15日までである。

(7) 通 貨

サウディアラビア王国の通貨はサウディ・リヤール (Saudi Riyal : SR) で、1リヤールは100ハララである。ドルとの交換レートは、1986年6月から1ドル = 3.745リヤールに固定されている。

通貨の種類は次の通りである。

紙幣 (リヤール) : 1、5、10、20、50、100、200、500

硬貨 (ハララ) : 5、10、25、50、100



サウディアラビアの通貨

(8) 住 宅

サウディアラビアの建築は、イスラーム社会の伝統と価値観を継承しており、それが家々やビル設計に細部にわたり反映されていることが多い。外部のドアと窓はプライバシーの保護と隣人への配慮を重視した設計になっており、また、内部は気候と家族への思いやりを考慮した造りとなっている。砂漠地帯の居住区では、真夏時の熱風をできるだけ避けるため、家々はお互いに密着して建設され、道路網は熱風が通り抜けやすいように設計されていた。このような家造りとは対照的に、今日の住宅やビルは、広く分散して建築されており、断熱材やエアコンを利用して冷房されている。



サウディ人の住宅

昔の家々は、身近にある自然の材料を使って建築されていた。砂漠では、粘土が基本的な建築材料であり、一方、山岳地方では、石を使って家が作られ、木の幹と枝、そしてナツヤシの葉が、屋根葺きとドアの材料として使用されていた。

国家の発展とともに、これら伝統的な建設資材は姿を消し、今では鉄筋やコンクリート、塗料などを用いて家が建設されている。伝統的な建築様式は現在も健在ではあるものの、大規模な事務所ビル、アパートメント、ショッピングセンタ



外国人用コンパウンド（リヤード）

ーなどでは、ほとんど採用されていない。

在留外国人ビジネスマンとその家族は通常、フラット（アパートメント）または平屋建てや2階建てのコンパウンド形式の高級ヴィラ（一戸建て住宅）に居住している。コンパウンド内にはテニスコートや水泳プールをはじめとするリクリエーション施設が併設され、中にはボーリング場や小規模ゴルフ・コースを敷地内に所有しているコンパウンドもある。警備員と医療スタッフの常駐、衛星放送受信設備など一流ホテルに匹敵するサービスが提供されているほか、コンパウンドからスーパーマーケットや幼稚園、美容院への無料シャトル・バスも運行されている。単身用から家族用まで、各種の居住施設が整っているため、在留外国人は各々の家庭環境とライフ・スタイルに適応した住宅を選ぶことができる。

家賃は住宅の所在地によって多少異なるが、家具付住宅の標準的な年間賃借料は、寝室1部屋のフラットで6万～7万リヤール（180万円～210万円）、寝室4部屋のヴィラで16万リヤール～20万リヤール（480万円～600万円）である。

(9) 食事・レストラン

サウディアラビアの料理

サウディアラビア家庭の一般的な朝食の内容は、パン、豆、卵、蜂蜜、果物、



アラブ料理

ナツメヤシ、ミルク、紅茶を主体とした軽食である。通常、正午のお祈り後に取り
る昼食が3食の中では主要な食事となっており、その内容は、米、肉、小麦をベ
ースとしたムルクークやクルサン、ジュライシュという名のサウディ料理と果物、
お菓子である。夕食は、昼食を少し軽めにした内容のものが一般的となっている。
また、紅海やアラビア湾に面した沿岸地域では、魚、米、たまねぎなどを使った
シーフードもある。

サウディ社会の近代化により、世界各国の様々な料理を味わうことができるよ
うになったが、サウディ人のほとんどは今も伝統的なサウディ料理を好んで食し
ている。

参考までにアラブとサウディアラビアの代表的な料理を以下に紹介する。

カプサ：サフランで黄色く着色され、アーモンドや干しぶどう、松の実などを
炊き込んだご飯の上に、煮こんだ肉やローストされた肉を載せた料理で、カプ
サと総称されている。結婚式やパーティの席上、または知人の家に招待された
ときなど、直径が1メートルほどもある大きな平皿に盛られたご飯の上にロー
ストされた半身または一匹まるごとの小羊が載っている豪華なカプサが提供さ
れる。小羊のことをアラビア語でカルーフと呼ぶことから、この料理のことを
「カルーフ」と呼ぶ人もいる。羊の目玉は珍重され、ホストのアラブ人はかな



カプサ

らず主賓に目玉を差し出し食べるよう促す。これは目玉が美味だからというよりは、目玉が一匹の羊にたった二つしかない貴重なものであるため、主賓に敬意を表して行う、アラブ流のホスピタリティだと考えられる。

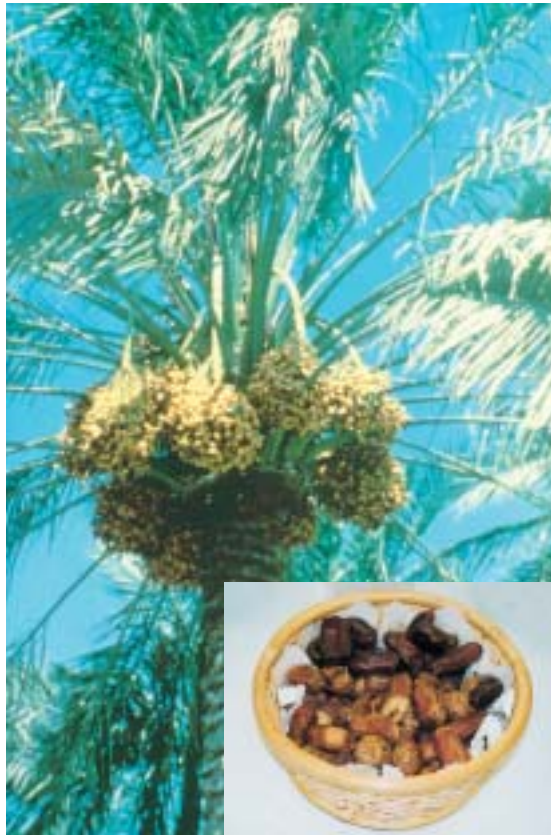
ムルヒーヤ（モロヘーヤ）：最近、日本においても栽培され、町のスーパーなどで販売されている野菜の名前である。緑色の葉を切り刻み、鶏肉のスープの中に入れ、火にかけて煮立つ直前に、バターで炒めたニンニクのみじん切りを加えると、長芋をすりおろしたようなとろりとしたムルヒーヤ料理ができあがる。スープとして、またはご飯にかけたり、パンにつけたりして食べる。

マハシー：トマト、ナス、ピーマン、キャベツなどの野菜にひき肉や米を詰めたり、葉でまいたりして、料理されたもの。

フル：フルとはソラマメのことで、ソラマメを鍋で煮てから潰してペースト状にし、オリーブ油を混ぜた料理のことをフルと呼び、ホブズという名の丸くてうすいアラビアパンにつけて食べる。

ホンモス：これも豆料理の一種で、フルと似ている。ヒヨコ豆を鍋で煮てから潰し、ペースト状にして、オリーブ油、塩、レモン、ニンニクなどで味付けしたもので、ホブズにつけて食べる。

ナツメヤシ：アラブの国でかならず目につく食品にナツメヤシがある。乾燥したものの、飴のようにねっとりとしたものの、大粒のものや小粒のものなどいろいろな種類がある。ナツメヤシはアラブ人にとって重要な主食の一つであった



収穫近いナツメヤシ



サウディアラビア航空機内でのアラブ・コーヒーのサービス

が、様々な食材が入手できる現在は主食の座から降り、間食やお菓子代わりとして食べられたり、外国へのお土産品として活用されたりしている。また、断食月のラマダーンには、断食後の最初に口に入れる食品として日没後にナツメヤシを食べるアラブ人が今も多く、食料品店の店先には大量のナツメヤシが並べられ、販売されている。

アル・ウクト：砂漠の伝統的な食品であり、ミルクから作られる。ミルクはその水分が蒸発し、ペースト状になるまで煮立てられる。ペーストになったミルクを冷ました後に、小さく切り分け、屋根の上に置き、天干しし、砂漠の草を加え、風味をつけて出来上がる。

アラブ・コーヒー：日本酒の盃のような形をした小さなコーヒーカップで飲む、アラブ独特のコーヒーである。ひとつかみのコーヒー豆を煎り、金属製の小さなウスとキネで粉にして、沸騰した湯にこのコーヒーの粉を入れ、そしてカルダモンを加えてできあがる。客人は何回もおかわりをできるが、コーヒーの注ぎ手に対し、空になったコップを左右に軽く振るのが「ごちそうさまでした」の合図になり、注ぎ手もおかわりの強要はしない。

なお、宗教上の理由により、豚肉と酒類は禁止されているので、アラブ料理をはじめとするサウディアラビア国内のすべての料理には豚肉や豚肉から作られ

るハムなどの食品および酒類は一切使用されていない。また、当然のことながら国内への豚肉とその関連食品ならびに酒類の持ちこみも厳禁されている。敬虔なイスラーム教徒は海外においても豚肉と酒類は一切口にしないのである。

また、アラブ人と食事を共にする際のマナーもいろいろあるが、特に非イスラーム教徒の外国人が気をつけなければならないのは、「左手で飲食してはならない」ということである。しかし、食事中に左手を使うなということではなく、パンや肉を手でちぎったり、果物の皮を剥いたりするときは左手を使ってもかまわない。ただ、口に飲食物を運ぶときには必ず右手を使わなければならない。悪魔は左手で飲み食いするとアラブでは言われているからである。

レストラン

リヤード、ジェッダ、ダンマーム、アル・コバルなどの主要都市には高級ホテル内の豪華なレストランから街中の大衆レストラン、そしてハンバーガーやピザなどのファーストフード店にいたるまで、様々なレストランがあり、アラブ料理はもちろんのこと、フランス料理、イタリア料理、中華料理、インド料理、トルコ料理、韓国料理、レバノン料理、日本料理など世界各国の料理を楽しむことができる。紅海岸のジェッダとアラビア湾岸のアル・コバルにはシーフード・レストランもあり、新鮮な魚介類を味わえる。

(10) 買 物

各都市には欧米型の大規模スーパーマーケットや近代的なショッピング・モール、地元の商店街、そしてアラブの伝統的なスーク（市場）にいたるまで多種多様なショッピング・スポットがある。世界の有名ブランドの靴、衣服、化粧品、そして米、野菜、肉といった食料品、家電製品、日用雑貨など生活に必要な品物はすべて揃っており、買い物に不自由することはほとんどなく、醤油などの日本食品も手に入る。

サウディアラビア王国は食料品を含め多くの生活物資を輸入に依存しているものの、関税が低く抑えられているため、価格は日本や欧米諸国と比較しても相対的に安いといえる。電気などの公共料金も低廉で、また、個人所得税もないため、サウディアラビアは経済的には世界でも住みやすい国の一つである。



衣料品店



市場

(11) ラジオ・テレビ・新聞

ラジオ：ラジオの放送網は、総合番組（ニュースや会議、国家行事などの生放送）第2番組（バラエティー、スポーツなどの人気番組の放送）、イスラームへの呼びかけ（イスラーム思想・遺産などイスラームのメッセージを伝達）、聖クルアーン・サービス（全アラブ世界、東南アジア、アフリカ諸国に放送）、ヨーロッパ番組（英語とフランス語による放送）、オリエンタル番組（ベンガル語、インドネシア語、マレー語など12カ国語による、イスラーム関連放送）から構成されている。また、巡礼の時期には、巡礼者向けの数カ国語による季節番組も放送される。

テレビ：テレビは4チャンネルによ



テレビタワー（リヤード）



女性テレビキャスター



る放送が行われている。第1チャンネルはアラビア語放送、第2チャンネルは英語放送（フランス語のニュースも放送）、第3チャンネルは青少年向け番組とスポーツ番組、そして2004年1月から放送を開始した第4チャンネルは国際ニュースや時事問題を取り扱った番組を放映している。

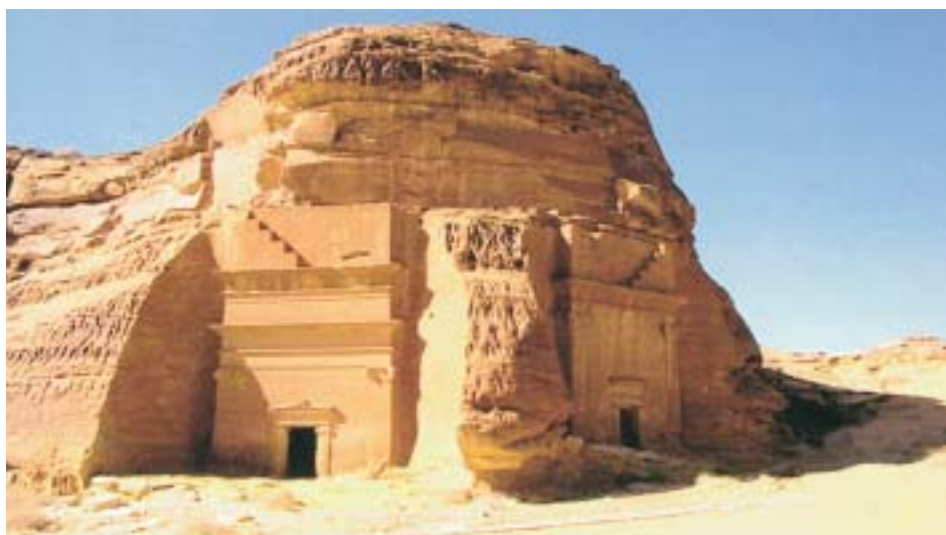
新聞：日刊紙が12紙あり、内3紙は英語である。

サウディ国営通信社（Saudi Press Agency：SPA）は24時間にわたって、アラビア語、英語、フランス語でラジオ、テレビ、新聞にニュースを供給している。

（12）国内観光

サウディアラビア国内には、古代遺跡や城砦、モスク、博物館など多くの観光スポットがある。観光事業に多額の資金が投下され、西部と東部の両海岸や山岳地帯が観光リゾート地として開発されている。ホテル、ヴィラ、リゾートハウスなどの宿泊施設をはじめ、観光村や遊園地、レジャーセンターなど、数多くの施設が整備されている。このような観光施設の充実と豊富な観光資源は、国内の旅行者のみならずアラビア湾岸諸国を中心とした海外からの観光客も引き寄せている。

観光の目玉となる考古学遺跡はサウディアラビア王国全土において発見されている。最も有名な遺跡は、ジェッダから北方約845キロメートルに位置する、マダーイ



マダーイン・サーレハ遺跡

ン・サーレハである。メソポタミアを故国とするナバタイ人がヨルダンのペトラとアラビア半島のマダーイン・サーレハに移住し、約2000年前に岩山に洞窟を掘って造った巨大な墳墓遺跡群である。この他に、紀元前4～



マダーイン・サーレハの日本人観光客

5世紀に遡るバツラーカ山（リヤード東方65キロメートル）、アル・ファウ（リヤード南西700キロメートル）、紀元前1200年頃の陶器が発見されている北西部のアル・ウラの遺跡など、考古学的に貴重な古代遺跡が各地にある。

夏季になると新鮮な空気と涼しい気候を求め、多くの観光客が高地の避暑地を訪れる。国内第1の避暑地はターイフで、次が南西部のアシール州とバーハ州の山岳都市である。ターイフはマッカから88キロメートルに位置しているため、同地を避暑地として選んだ観光客は日帰りでマッカの聖モスクを訪れ、礼拝することができる。アシールは「避暑地の花嫁」と称されており、州都アブハーを中心に観光地が点在してい

る。森林公園や遊歩道が整備され、平地と山頂を結ぶケーブルカーも運行されている。

西の紅海岸と東のアラビア湾沿いには、きれいに整備された海岸道路が広がっており、1年を通し様々な海洋レジャーを満喫することができる。ジェッダは「紅海の花嫁」との別名を



ケーブルカー（アブハー）

持つ美しい海岸都市であり、また、東部のダンマームとアル・コバルもマリーン・リゾート地として多くの観光客を引き付けている。

文化・遺産博物館、歴史博物館、科学博物館など、国内に60以上の博物館がある。リヤードには、「国立考古学・民族遺産博物館」、「マスマク城博物館」などの有名な博物館があるほか、ダンマーム、ハーイル、ホーフフなど各地に地域博物館が設立されている。マスマク城博物館には、アブドルアジーズ国王が国家統一の戦いにおいて使用した武器や道具など、数々の遺品が展示されている。

動物園はジェッダに2つ、リヤードにひとつあり、象やトラ、ライオン、猿、鹿、



各種鳥類など50種以上の動物が飼育されている。また、国内各地に、レストランやショッピング施設を併設した近代的な遊園地もあり、市民の憩いの場となっている。

多くのビジネスマンや観光客を収容するため、国内の各都市や避暑地には、インターコンチネンタル、ヒルトン、シェラトンなどの国際的に有名な高級ホテルからリゾートホテルにいたるまで、各種クラスの宿泊施設が整っている。

主要ホテル

ホ テ ル	電話番号	ファックス番号
リヤード地区		
Sheraton Hotel	(01) 454-3300	(01) 454-1889
Riyadh Marriot Hotel	(01) 477-9300	(01) 477-9089
Riyadh Inter-continental Hotel	(01) 465-5000	(01) 465-7833
Hyatt Regency Riyadh	(01) 479-1234	(01) 477-5373
Holiday Inn Riyadh	(01) 461-2000	(01) 461-2595
Hotel Al Khozama	(01) 465-4650	(01) 464-8576
Al Faisaliah Hotel	(01) 273-2000	(01) 273-2001
ジェッダ地区		
Jeddah Inter-continental Hotel	(02) 661-1800	(02) 661-1145
Hyatt Regency Jeddah	(02) 651-9800	(02) 651-6260
Jeddah Marriott Hotel	(02) 671-4000	(02) 671-5990
Sheraton Jeddah Hotel	(02) 699-2212	(02) 699-2660
Crown Plaza Hotel	(02) 661-1000	(02) 660-6326
Holiday Inn Resort Obhur	(02) 656-3030	(02) 656-1104
マッカ地区		
Hyatt Regency Makkah	(02) 537-3303	(02) 537-4055
Inter-continental Hotel Makkah	(02) 543-4455	(02) 543-4054
マディーナ地区		
Dar Al Hira Inter-continental	(04) 820-7777	(04) 820-7788
Sheraton Medina	(04) 823-0240	(04) 825-1628
タイフ地区		
Al-Hada Sheraton Hotel	(02) 754-1400	(02) 754-4831
Masasrah Inter-continental Hotel	(02) 750-5050	(02) 750-5040
ダンマーム/アル・コバル地区		
Al Gosaibi Hotel	(03) 894-2466	(03) 894-7533
Gulf Meridien Hotel	(03) 864-6000	(03) 898-1651
Sheraton Dammam Hotel & Towers	(03) 834-5555	(03) 834-9872
Dhahran International Hotel	(03) 891-8555	(03) 891-8559
Al-Hamra Holiday Inn Hotel	(03) 833-3444	(03) 833-0944
Carlton Al-Mosaibed	(03) 857-5455	(03) 857-5443
Ramada Palace Hotel	(03) 891-5444	(03) 891-5333
ジュベイル地区		
Al Jubail Inter-continental Hotel	(03) 341-7000	(03) 341-2212
アブハー地区		
Abha Inter-continental Hotel	(07) 224-7777	(07) 224-4113
Abha Palace	(07) 229-4444	(07) 229-5555